校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ㉗

令和２年１２月１８日（金）

「折れない心」

昨日は、２学期終業式でした。そして、今年も残すところ約２週間を切りました。今年は、年初から新型コロナウィルスの流行が始まり、３月初めからは約２ヶ月半の臨時休校、新年度のスタートは５月末からという超変則の年となりました。次から次に未だかつて経験したことがないことが起こったり、今までできていたことができなくなったりと、不安や持って行き場のないもやもやした気持ちに苛(さいな)まれた「不自由な」１年であったと言えるかもしれません。と同時に、これまで当たり前だと思っていたことが決して当たり前ではないことに気づかされたり、新たなことへの取組が大きく前進したりという「プラス」の面が芽生えたことも忘れられません。

宗高・宗中のみなさんひとり一人もまた、不安や焦りを感じ、きつい思いもたくさんしたのではないかと思います。しかし、そんな中にあっても、様々な変化にみなさんが落ち着いて対応し、できることに一生懸命取り組んでくれたことによって、そして、保護者のみなさんの御理解と先生方の骨身を惜しまぬ尽力によって、イレギュラーなことだらけだったこの１年も、本校としてはしっかりと教育活動を展開することができました。本校に関わる全てのみなさんへの感謝しかありません。

今月初め、そんな本校に昭和５４年卒業のＳ先輩から次のようなお手紙を頂戴しました。

「私はいま関西にいますが、故郷の母校で学んだことや培ったことが、今の状況下での対応に役立っているように感じています。私が通っていた頃は、共通テストや受験色が色濃く出てきた頃でした。それでも、新しいことに夢中になったり、好きなことを諦めないことなど、物事を柔軟に考える土台はその頃に培ったように思い出されます。そんな気質がある学校で学べたことを、嬉しく思うとともに、教育に携わってくださった方々に深く感謝したいと思っております。・・・(中略)・・・一つの言葉を贈らせていただきたいと思います。聖書の中に次のような言葉があります。

『足の速い人がいつも競走に勝つわけでも、強い人が戦いに勝つわけでもない。また、賢い人がいつも

食事にありつけるとは限らない。知的な人が裕福になるとも、知識がある人が成功するとも限らない。なぜなら、**思いもよらないことがいつ誰にでも起きる**からだ。』

人生には、予想外の変化に対応していかなければならない時があることを示した言葉だそうです。そうした時には、**折れない心**を持つなど、積極的な見方が必要ですね。

先日読んだ雑誌に、こんな一文がありました。

『**若い人が折れない心を持つには、自分の状況を分析して、変化は人生の一部であると考えることです。この事実を受け入れるのが早ければ早いほど、先に進むのが容易になります。**』

解説によると、『**折れない心とは、逆境を乗り越え、変化に順応しようとする心のことです。折れない心を持つ人は、自分の置かれた状況の積極的な面を探します。**』とありました。参考になればと思い、引用させていただきました。」・・・（後略）・・・。

まさに今年は、「思いもよらないこと」ばかりが起こった１年でした。そんな時にどう対応してくのか、そんな想定外の出来事が起こった時の私たちのあり様によって、同じ状況に遭遇しても、その結果には大きな違いが起こるのではないでしょうか。

「変化は人生の一部である」という前提に立ち、「折れない心＝逆境を乗り越え、変化に順応しようとする心」で物事に臨んでいけば、必ず希望と展望が開けるはずです。「厳しい」「大変だ」「きつい」「困った」・・・といったマイナスのメンタリティではなく、前向きのメンタリティ（**自分の置かれた状況の積極的な面を探す**）をもって進んでいけば、今までできなかった色々なことにこの新型コロナウィルス禍によって思いがけないいい展開があったように、一見逆境に見えるところから、新たな世界、新たな段階の萌芽があるはずです。

今年は誰もが立ち止まらざるを得ない「不自由な」時をすごしています。しかし、こんな時こそ、前向きのメンタリティ（自分の置かれた状況の積極的な面を探す）と共に、自分や身の回りを見つめ直し、物事の本質について考えてみることが必要なのではないかと思います。

感じることや考えること、言い換えれば「想像力（＝理性）」を膨らませ、働かせ、そのことによって、自分の枠を広げ、相手の気持ちや立場が想像できるようになることで理解や信頼が生まれることにつながっていきます。こんな「不自由な」時代だからこそ、想像力を逞（たくま）しく広げていってほしいと思います。

私たち日本人は、１００年前にはスペイン風邪の大流行、１９４５年の敗戦、最近では阪神・淡路大震災、東日本大震災といった再起不能かと思われた数々の困難な事態に遭遇してきましたが、必ず見事に立ち直ってきました。この未曾有の新型コロナウィルス禍も、私たちは必ず克服し、見事に立ち直ることができるはずです。そして、これをきっかけにきっと「新たな社会」が誕生するのではないでしょうか。そういう意味では、今のこの厳しい状況は「新たな社会」に向かう「希望」しかない！ と言えるのかもしれません。そして、その「新たな社会」を力強く切り開いていく担い手こそがみなさんたちなのです！

校 長　　深 瀬　信 也